

平成22年 6月 1日現在

研究種目：基盤研究（S）

研究期間：2005～2009

課題番号：17102001

研究課題名（和文） 中近世風俗画の高精細デジタル画像化と絵画史料学的研究

研究課題名（英文） A study of Medieval and the Early Modern Japanese Genre Paintings by Iconological Method Their Archives of the High Resolution Digital Images.

研究代表者

黒田 日出男（KURODA HIDEO）

立正大学・文学部・教授

研究者番号：90013284

研究成果の概要（和文）：中近世風俗画の高精細デジタルコンテンツの蓄積、画像史料研究用プラットフォームの開発、合戦図屏風研究用の語彙集積とデータベース化、研究成果公開の一端として博物館・美術館の展覧会での展示、絵画史料学的研究の飛躍的向上など。

研究成果の概要（英文）：The accumulation of high-resolution digital contents of medieval and the early modern Japanese genre paintings, development of platform for research of iconic document, collecting vocabulary and making a database of Pictures of Battle Byobu research, exhibition as a part of the research result opening to the public in the museum and the art museum, and rapid improvement of the study by iconological method.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	17,600,000	5,280,000	22,880,000
2006年度	18,300,000	5,490,000	23,790,000
2007年度	17,100,000	5,130,000	22,230,000
2008年度	15,900,000	4,770,000	20,670,000
2009年度	7,900,000	2,370,000	10,270,000
総計	76,800,000	23,040,000	99,840,000

研究分野：人文社会系

科研費の分科・細目：人文学・史学

キーワード：日本史

1. 研究開始当初の背景

本科研は、日本中近世につくられた膨大な風俗画が歴史のイメージを研究する上で最良の史料であることに着目したものである。しかし、それらの風俗画は、横に伸びる絵巻や六曲一双の屏風のように巨大な画面であるため、画面に描かれた図像類の精密な観察と分析、熟覧と研究には、多くの困難があった。したがって従来の絵画史料学的研究では、市販されている絵巻物全集や大型図録に頼る

しかない場合が多く、研究の質的な飛躍のための基盤を整備する研究が求められていた。

2. 研究の目的

本科研では、第一に、高精細画像ビューワーに、風俗画作品を取り込む作業を積極的に行ない、それらの風俗画の高精細デジタル画像を、絵画史料学的に分析・読解する研究に提供する。また、これらの高精細デジタル画像は、絵画表面の微妙かつ繊細な状態の観察が

可能なので、その分析によって作画技術の解明や修補の状態を解明する可能性もでてきた。

第二に、この高精細画像ビューワーを、ひろく研究者一般の利用に供するための基盤整備も目指す。これは基盤研究の根本的な使命であると考えている。また、研究者の作品に対する視覚的経験を根本的に変え、これによって研究者の視野や分析方法、発想などに質的に格段の変化が生れるであろうことを目指している。

3. 研究の方法

(1) 中近世風俗画を、8×10 カラーポジフィルムをふんだんに用いて撮影し、高精細デジタル画像化する（場合によっては所蔵者の所有する4×5 カラーポジを借用するなどして経費の節減に努めることもある）。科研費で購入したワークステーション、スキャナー

（研究代表者の所属する大学内に設置）などを用いてデータ化をしたり、デジタル画像処理を行なうが、技術的・時間的に処理しきれないような大きなデータや精密な画像処理を必要とする場合は、専門メーカーに依頼する。

(2) それらの高精細デジタル画像化した絵画史料を研究するための、研究者にとって使いやすいビューワーと画像データベース構築・検索機能をもったプラットフォームのシステムを開発している。

(3) 上記のポジフィルムからデジタルデータ化した高精細画像を、同じく上記の高精細画像ビューワーに取り込む。高精細デジタル画像化した絵画史料の幾つかについては、その高精細デジタル画像データベース構築を行なうことにより、高精細デジタル画像を活用した絵画史料研究の実践例の提示を行う。

(4) (2)のソフトを歴史学、建築史学、美術史などの研究分担者・協力者で共有し、研究会などの場で、報告・議論し、さらにはその成果をデータベース化する。

(5) (2)(3)を所蔵者や公共の研究機関などで一般公開し、あるいは所蔵機関の研究者と共同研究の資源とすると共に、さらに研究を深めて、その成果を一般公開する。

以上により、研究基盤を質的に上昇させ、それらを、今後、研究者・院生・学生、教育関係者、教育・研究機関、美術・歴史愛好家等と共有できるようにしたいと考えている。

4. 研究成果

(1) 本研究では、合計すると19点の絵画作品＝絵画史料についての、高精細デジタル画像コンテンツをつくることができた。これが、本科研の基本的な研究成果である。

『洛中洛外図屏風』

上杉博物館本 (1300dpi) ◎/ (2000dpi) ●

林原美術館本 (1300dpi・2000dpi) ●

岐阜市歴史博物館本 (2000dpi) ●

東京国立博物館模本 (2000dpi)

舟木本 (東京国立博物館) (1300dpi) ◎

歴博甲本 (国立歴史民俗博物館) (1300dpi) ◎

同上乙本 (1300dpi) ◎

大阪市立美術館本 (2000dpi)

大阪城天守閣所蔵本 (2000dpi)

『京洛風俗図屏風』(国学院大学栃木短期大学参考館) (1600dpi)

『大坂夏の陣図屏風』(大阪城天守閣) (2000dpi)

●

『大坂冬の陣図屏風模本』(東京国立博物館) (2000dpi)

『賤ヶ岳合戦図屏風』(岐阜市歴史博物館) (2000dpi)

『江戸図』(国立歴史民俗博物館) (1300dpi) ◎

『江戸天下祭図』(個人) (2000dpi) ◎

『豊国祭礼図屏風』

徳川美術館本 (2000dpi) ●

豊国神社本 ●

『日蓮聖人註画賛』(本圀寺) (2000dpi) ●

『年中行事絵巻模本』鶏合巻 (個人) (1600dpi)

※上記のうち、◎の付してあるものは所蔵者・館が所有しておられる4×5サイズのフィルムやデジタルデータを拝借して、画像処理し結合・調整、高精細デジタル画像として生成したものである。それ以外はすべて、8×10サイズの単片フィルムを用いた撮影による新規のデータである。●は画像史料研究用プラットフォーム「Advanced Pictionary」に搭載して共同研究の準備を整備した。

(2) 画像史料研究用プラットフォームの進化である。前科研で開発した「Pictionary」は進化・成長を続け、一応の完成をみることができたことは、本科研の大きな成果であった。具体的には研究者用のPC仕様、展覧会などでの一般来館者用タッチパネル式を開発した。

(3) 中近世風俗画の周縁的研究成果。戦国合戦図屏風研究を深化させるために不可欠な語彙データベースの構築であり、合戦関連語彙や戦国期の語彙を蓄積した。『甲陽軍鑑』『信長公記』『難波軍記』などのフルテキストデータベースを作成した。検索用エンジンについてもあわせて開発、完成した。また、そうした研究のプロセスで、山本菅助(勘助)文書の探索も行い、その撮影を済ませた。いずれ『山本菅助家文書(仮題)』なる史料集を公刊する予定である。絵画史料学的研究は、このような文字テキストを存分に活用できる研究条件の構築を伴わなければならないのである。

(4) 風俗画としての肖像ないし肖像画の研究である。甲斐善光寺所蔵の源頼朝坐像の調査・研究や神護寺三像の研究を、本科研の一部に組み込み、5年間にわたって深めてきた。

その研究成果は2冊の著作となって、一兩年のうちに公刊される予定である。

(5) 絵画史料学的研究の展開と研究上の飛躍をほぼ実現できたと思われる。たとえば、洛中洛外図屏風のための基礎的研究が研究成果報告書にまとめられたことである。本科研は、林原木工房系の洛中洛外図屏風を中心に、近世洛中洛外図屏風研究を質的に飛躍させることができた。また、建築史や美術史などの若手・中堅研究者による絵画作品・絵画史料研究が魅力的な成果を示しはじめたことである。そして、新出本洛中洛外図屏風や江戸天下祭図屏風などについて新たな仮説を提出することができたことなどもある。なお、林原本洛中洛外図屏風の高精細画像データベースを完成させることができたことも掲出できよう。

(6) 本科研の研究成果公開。研究期間内の2009年度群馬県立歴史博物館における上記(1)に掲出した『大坂夏の陣図屏風』のタッチパネル式Advanced Pictionary端末を出陳できた。さらに2010年秋には岐阜市歴史博物館において上記(1)に掲出した『洛中洛外図屏風』のデジタルデータ等を用いた端末を出陳する方向で調整が進んでいる。最後に、群馬県立歴史博物館・林原美術館そして米沢市上杉博物館において、特別展を開催し、絵画作品原本と高精細デジタル画像コンテンツとを比較・鑑賞することの魅力、市民に提示する試みを行う。平成23年3~4月の群馬県立歴史博物館での特別展を出発点に、上の3館に巡回展示する予定である。

以上、研究成果の詳細は本科研研究成果報告書を参照願いたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計29件)

- ① 黒田日出男、「肩衣」の誕生考 — 絵画史料論者の仮説 —、宗教社会史研究 III、査読無、東洋書院、2005、pp59-77、
- ② 佐多芳彦、長林寺所蔵「長尾政長像」について — 中世武家服制再考の素材として —、栃木史学、査読有、19、2005、pp67-76、
- ③ 黒田日出男、甲陽軍鑑をめぐる研究史 — 『甲陽軍鑑』の史料論(1) —、立正大学文学部論叢、査読有、124、2006、pp5-74、
- ④ 黒田日出男、桶狭間の戦いと『甲陽軍鑑』 — 『甲陽軍鑑』の史料論(2) —、立正史学、査読有、100、2006、pp3-42、
- ⑤ 杉森哲也、IV 京都の町々 (『史料を読み解く — 近世の村と町 —』)、査読有、2、山川出版社、2006、pp85-112、
- ⑥ 山口和夫、本所所蔵「奏者番手留」及び「諸公事指図」のデジタル化とデータベースとの連携、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』、査読有、32、2006、pp16-19、
- ⑦ 藤川昌樹、高野山の山内空間と建築 (『高野山と密教文化』高野山大学選書)、査読無、2006、pp106-117、
- ⑧ 小島道裕、洛中洛外図屏風 (歴博甲本) はなぜ描かれたか、歴博、査読有、145、2007、pp2-5、
- ⑨ 小島道裕、この人は誰? — 登場人物で読む洛中洛外図屏風歴博甲本 —、友の会ニュース (国立歴史民俗博物館)、査読無、134、2007、pp4-4、
- ⑩ 杉森哲也、近世前期京都の都市法と都市社会 — 町触正文の分析を中心に —、塚田孝編『近世大坂の法と社会』、査読有、清文堂出版、2007、pp49-86、
- ⑪ 杉森哲也、〈史料紹介〉近世京都六条村文書について — 香川大学附属図書館所蔵『神原文庫』所収史料から —、『部落問題研究』、査読有、183、2007、pp61-85、
- ⑫ 山口和夫、寛永三年二条城行幸が描かれた「洛中洛外図屏風」 — 越前市武生公会堂記念館本について、『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』、査読有、36、2007、pp6-13、
- ⑬ 玉井哲雄、特集 城郭と復元 建築史学の現場から (『文化遺産の世界』)、査読無、23、2007、pp10-13、
- ⑭ 玉井哲雄、趣旨説明 鎌倉の建築と都市 (『日本美術のこぼれ』)、査読無、2007、pp5-5、
- ⑮ 玉井哲雄、中世鎌倉の町家、(『シンポジウム 鎌倉の建築と都市 — 建築史学と考古学の対話から —』)、査読無、2007、pp20-26、
- ⑯ 藤原重雄、温泉寺縁起絵、国華、査読有、1338、2007、pp25-28、
- ⑰ 藤原重雄、歴史家が解読する洛中洛外図 (『特集 天下の狩野永徳!』)、芸術新潮、査読無、58-10、2007、pp82-89、
- ⑱ 黒田日出男、戦国の使者と『甲陽軍鑑』 — 『甲陽軍鑑』の史料論(5) —、立正大学文学部研究紀要、査読有、24、2008、pp43-96、
- ⑲ 黒田日出男、金箔屏風へのみちすじ、『なごみ』、査読無、2008、pp48-51、
- ⑳ 黒田日出男、洛中洛外図の主題表現と注文主そして伝来、立正大学文学部研究紀要、査読有、25、2008、pp1-42、
- ㉑ 小島道裕、洛中洛外図屏風に描かれた『武士』、人間文化研究機構連携研究「武士関係資料の総合化」中間報告書、査読有、2008、pp44-51、
- ㉒ 玉井哲雄、趣旨説明 日中比較建築文化史

- の意義と展望（『歴博国際シンポジウム2007「日中比較建築文化史の構築—宮殿・寺廟・住宅—』、査読無、2008、pp2-3、
- ②③藤原重雄、永徳筆「洛外名所遊楽図屏風」と上杉本「洛中洛外図屏風」談義、東京大学画像史料解析センター通信、査読無、40、2008、pp6-14、
- ②④佐多芳彦、伝・頼朝像論—肖像画と像主比定をめぐって—（特集 日本史の論点・争点）、日本歴史、査読有、700、2008、pp75-85
- ②⑤黒田日出男、洛中洛外図屏風の主題表現と注文主そして伝来—新出洛中洛外図屏風と林原美術館本洛中洛外図屏風—、立正大学文学部研究紀要、査読有、25、2009、pp1-41、
- ②⑥佐多芳彦、文字・非文字史料のデータ化と利用をめぐって—漢字文献からくずし字、歴史図像まで—（『漢籍』39、2009） P38-43、
- ②⑦佐多芳彦、有職故実の現状と課題 —「服制と儀式の有職故実」補論—、風俗史学、査読有、39、2009、pp19-29、
- ②⑧佐多芳彦、『賀茂祭絵詞』とその周辺、京都産業大学日本文化研究所紀要、査読有、14、2010、pp25-35、
- ②⑨佐多芳彦、金泥から金箔へ ～上杉本『洛中洛外図』高精度撮影の成果の一環として～、栃木史学、査読有、24、2010、

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計5件）

- ①黒田日出男、小学館、吉備大臣入唐絵巻の謎、小学館、2005、
- ②米倉迪夫、平凡社、源頼朝像—沈黙の肖像画（増補版 平凡社ライブラリー577）、2006、
- ③佐多芳彦、吉川弘文館、服制と儀式の有職故実、2008、
- ④杉森哲也、東京大学出版会、近世京都の都市と社会、2008、
- ⑤黒田日出男、筑摩書房、王の身体 王の肖像、2009、
- ⑥黒田日出男、角川書店、江戸図屏風の謎を解く、2010

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

〔その他〕
 ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黒田 日出男 (KUORODA HIDEO)
 立正大学・文学部・史学科・教授
 研究者番号：90013284

(2) 研究分担者

藤井 貞和 (FUJII SADAKAZU)
 立正大学・文学部・文学科・教授
 研究者番号：40134754

(H17-H20、H21 連携研究者)

坂輪 宣敬 (SAKAWA SENKYOU)
 立正大学・仏教学部・教授
 研究者番号：70062825

(H17-H20、H21 連携研究者)

米倉 迪夫 (YONEKURA MICHIO)
 上智大学・国際教養学部・教授
 研究者番号：70099927

(H17-H20、H21 連携研究者)

玉井 哲雄 (TAMAI TETSUO)
 国立歴史民俗博物館・研究部情報資料研究系・教授

研究者番号：80114297

(H17-H20、H21 連携研究者)

久留島 浩 (KURUSIMA HIROSHI)
 国立歴史民俗博物館・研究部歴史研究系・教授

研究者番号：30161772

(H17-H20、H21 連携研究者)

宮崎 勝美 (MIYAZAKI KATSUMI)
 東京大学・史料編纂所・教授
 研究者番号：60143533

(H17-H20、H21 連携研究者)

小島 道裕 (KOJIMA MICHIIRO)
 国立歴史民俗博物館・研究部歴史研究系・教授

研究者番号：90183805

(H17-H20、H21 連携研究者)

杉森 哲也 (SUGIMORI TETSUYA)

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：20226468

(H17-H20、H21 連携研究者)

藤川 昌樹 (FUJIKAWA MASAKI)

筑波大学・大学院システム情報研究科・教授

研究者番号：90228974

(H17-H20、H21 連携研究者)

山口 和夫 (YAMAGUCHI KAZUO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：00239881

(H17-H20、H21 連携研究者)

藤原 重雄 (FUJIWARA SIGEO)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：40313192

(H17-H20、H21 連携研究者)

佐多 芳彦 (SATA YOSHIKYO)

国学院大学栃木短期大学爾日本史学科・准教授

研究者番号：70552256

(H22、H17-H20 研究協力者)

(3)連携研究者

()

研究者番号：